

わくわく学びの街・下関

下関市教育委員会 生涯学習課
社会教育主事だより
令和6年12月20日



学校内子育てひろばについて

核家族化や少子化、コロナ等により親戚付き合いが少なくなる中、「赤ちゃんを抱いたことがない」という生徒が増えており、家庭をもった時に初めて赤ちゃんや子育てに出会う方がいます。「学校内子育てひろば」とは、中学校や高校内で、乳幼児親子が集う「子育てひろば」を開くもので、未来を担う若い世代が、家庭や子どもにふれあう機会にしたり、乳幼児の保護者を支援したりする場として広がっています。参加する中高生・子育て家庭・学校それぞれのメリットを紹介します。

中高生	<ul style="list-style-type: none">・家庭や子どもをもつことについての理解の促進・命の大切さを学ぶ機会・コミュニケーション能力の向上
子育て家庭	<ul style="list-style-type: none">・中高生や地域の高齢者を含めた多世代交流の促進・子育てに関する孤立感の軽減
学校	<ul style="list-style-type: none">・コミュニティ・スクールや家庭教育支援に係る取組の充実・家庭科授業の充実



赤ちゃんが学校にきたよ！！！！



下関市立勝山中学校



山口県立長府高等学校



山口県立工科高等学校



今回は、社会福祉法人勝山園つくしんぼの会、NPO 法人下関子ども・子育てネット、子育て広場まーむが、中学校や高校で「学校内子育て広場」を行っている様子を視察しました。訪問した下関市立勝山中学校、山口県立長府高等学校、山口県立下関工科高等学校では、家庭科の授業で「学校内子育てひろば」を実施していました。

最初は緊張気味の中高生や赤ちゃんでしたが、ふれあう中でだんだんと笑顔が増え、会場がやさしく温かい雰囲気になっていました。慣れている生徒もいれば、初めて

赤ちゃんを抱く生徒もおり、それぞれが赤ちゃんとのふれあいを楽しんでいました。

合間に生徒が、「子育てをされていて嬉しいことは何ですか?」、「大変なことは何ですか?」、「いつから歯が生えるのですか?」などの質問を親御さんにしていました。家庭科には、「家族・家庭生活」の内容があり、生の声を聞くことで、子供たちは家族や家庭への理解が深まっていました。また、この時間が、親御さんにとっても、立ち止まって子育てを振り返ることができる貴重な時間になっていました。